

農家と農地を守り、耕作放棄地を減らしたい

市農業委員会初の女性会長職務代理者

三浦 美恵子 さん

みうら・みえこ 64歳 大石平



昭和32年生まれ。一関市(旧大東町)出身。夫、長男と暮らす。趣味は樹脂粘土で花を作るパンフラワー作り。岩手山に落ちていく夕日がお気に入り。尊敬する人は母。好きな言葉は「為せば成る」。休みの日はぼーっとテレビを見てリフレッシュする。

9月1日に開かれた市農業委員会総会で、委員による互選の結果、合併以前を含めて初めて女性の会長職務代理者に選ばれた三浦美恵子さん。「後に続く若い女性にほんの少しでも前進する力が湧いてくれたらうれしい。でも背伸びしすぎかも」とおどけた表情を見せつつも「今まで以上に行動に責任を持って、委員一人一人の意見や思いを聞ける存在を目指したい」と気を引き締める。

市農業農村指導士の会で活動していた経験から市議会の推薦を受け、農業委員になる。「農家の仕事は男性だけでなく女性の力も大きい。女性の力が農業にとっても農業委員会にとってもプラスになる」と信念を持ち、ひた向きに活動を続け、気が付くと10年目を迎えていた。耕作者が高齢化し、後継者がいないままリタイアした後に農地が耕作放棄地となっ

てしまう現状に警鐘を鳴らす。「耕作放棄地は害虫や害獣の増加、不法投棄されやすいなど農業以外への悪影響も大きい。農地を守るため、市に親元就農への支援を働き掛け、担い手不足の現状を変えていきたい」と意気込む。

市のふるさと納税協力事業者としての顔も持ち、返礼品のトウモロコシの生産に励む。「値段に引かれて安価な外国産を選ぶのではなく、口に入るものだからこそ農家を守り続ける農地で心を込めて育てられた野菜を選んでほしい。地産地消で農家を応援して、一緒に古里の自然を守りましょう」と呼び掛ける。



目視で農地の現況を確認する三浦さん

■編集後記
マイルミネーション点灯式で、カウンタダウンの写真を撮るべく場所を取り、試し撮りをして準備万端スタンバイ。定刻5分前から辺りが急速に暗くなり始め、カメラ設定が見直しに。明るさ優先だと写真はブレる、シャッター速度優先だと写真は真っ暗。容赦なく迫る時間に1人パニックでした。(吾)
▽ダイヤモンド婚を祝う会を取材しました。60年というとても長く長い歲月、苦楽とともに生活してきた人生の大先輩たちの姿に感銘を受けました。調べたところ私は結婚5年目なので木婚式というそうです。銀、金、ダイヤモンドと輝きを増していけるように頑張りたいと思います。(雅)

【広告】

いぼ、癌、免疫系等
コミュニティバス「にしね眼科」バス停すぐ
薬のプロフェッショナルがあなたのご相談を承ります
漢方のあさひ薬局 西根中学校前店
公認スポーツファーマシスト 国際中医専門相談員 認定実務実習指導薬剤師
薬剤師 齋藤 貴将
八幡平市大更24-1-118(西根中学校前) TEL.0195-70-2311